

(参考例)

(記載上の留意点等、一応の目安です)

研 究 業 績 目 録

豊 中 三 郎

- A. 学術論文 (学協会誌に掲載された原著論文)
- B. 解説・総説
- C. 国際会議論文 (国際会議の proceedings に掲載された論文)
- D. 著書
- E. 外部資金獲得実績
- F. 特許・知財等の実績
- G. 特記事項等

の順番に掲載する。

記載にあたっての一般的注意事項

1. 記載事項の記載フォーマットは、下記の要件を満たし、必要な情報が記載されていれば任意の形式で構わない (下記の例は一例である)。
2. 出版済みのもののみ記載する。
3. 受理済みのものは、「印刷中 in press」として加えることができる。
4. 投稿中 (申請中) のものは不可。
5. 発表年の古い順に通し番号をつけて記載する。
6. 著者名は全員記入する。
7. 該当著者を下線で表示する。

A. 学術論文

1. Creation of Quasi-Stable Lattice Defects by Electronic Excitation in SiO₂

S. Toyonaka, T. Suita, and U. Takatsuki

Phys. Rev. Lett. 51 (1983) 423-426.

B. 解説・総説

1. 無機非金属における光化学反応

高槻裕子、豊中三郎

放射線化学、40 (1985) 18-25.

C. 国際会議論文

1. Self-Trapped Excitons in Amorphous and Crystalline SiO₂

T. Suita, S. Toyonaka, and U. Takatsuki

Proceedings of the International Conference on The Physics and Technology of Amorphous SiO₂, (Plenum, New York, 1988), 135-141.

記載にあたっての留意点

- ・ 国際会議名を明記する。
- ・ Proceedings の出版社、印刷所の場所、印刷年を明記する。
- ・ Abstract 集(Extended abstract も含む)は不可。

D. 著書

1. Structure and Imperfections in Amorphous and Crystalline Silicon Dioxide

S. Toyonaka, T. Suita, and U. Takatsuki

(John Wiley and Sons, LTD, New York, 2000)

記載にあたっての留意点

- ・ 出版社、出版都市名、出版年を明記する。
- ・ 分担執筆の場合は、該当する部分（章、節など）を明記する。
- ・ 翻訳書は著書には入れない。

E. 外部資金獲得実績

F. 特許・知財関連の実績

G. 特記事項等

(参考例)

(記載上の留意点等、一応の目安です)

氏名 豊 中 三 郎

研究開発活動・マネジメント・支援業務・人材育成
の経験に関する一覧

これまでに従事した研究・開発活動や業務、研究・開発マネジメントや機器共用マネジメント経験、機器利用・共用支援などの経験、教育や人材育成の経験について、主たるものを下記リストに簡潔に記入してください。必要に応じて欄を増やしてください。

1. これまでに従事した研究活動・業務について

	従事した研究開発活動・業務	実施場所	期間	応募者の役割	利用した分析機器や解析法など
1	接着特性劣化の原因究明のための接着表面状態評価	財団法人 A 研究所	2005 ~ 2007	主任研究員として分析方法などを検討・指示。データの検討	XPS, SIMS, TEM
2	疾病診断用の機能性ナノ粒子の開発と特性評価	B 大学 工学部 化学科	2007 ~ 2010	疾病の迅速検知のため表面修飾を行った蛍光ラベルしたナノ粒子の開発。その粒径評価、ならびに病原検知特性の評価	TEM, SEM 蛍光顕微鏡 フローサイトメーター
3	新規開発された界面活性剤の残留特性と分解性の評価	C 株式会社 化学分析部	2010 ~ 2015	新規開発された界面活性剤の特性評価	LC-MS 動的光散乱法 NMR
4	抗がん剤の新規合成とその特性評価	D 大学 工学研究科 応用化学	2015 ~	抗がん剤の新規合成 構造解析	LC-MS NMR X 線回折装置

2. これまでに従事した支援業務・マネージメント業務・人材育成・教育について

	従事したマネージメント・ 支援業務・人材育成・教育	実施 場所	期間	応募者の役割や業務内容など
1	機器分析室の運営	A 大学 理学部 機器分析室	2010 ~ 2015	室長として、分析依頼者への技術対応、なら びに分析室担当者への指示、分析室の運営
2	中央分析室の質量分析グループ の統括と後進指導	B 製薬 中央研究所	2005 ~ 2010	メンターとして、新入社員（蛋白質質量分析 担当）の育成を担当。
3	分析化学について授業	D 大学 工学研究科 応用化学	2015 ~	学部 2 年生向けに分析化学の授業を担当（週 1 コマを 6 ヶ月間）。